

出雲でがんばっている人・出雲が大好きな人インタビュー ～ 大好き☆出雲！倶楽部「人・地域グループ」～

今回は、
月岡 誠さん（27歳）と橋本真樹さん（23歳）をインタビューしました。
若いお二人は、将来の出雲の漁業を支える漁師さんです。

インタビュー日時 : 平成24年(2012)10月4日(木) 9:00～
天気 : 「天高く馬肥ゆる秋」という言葉がぴったりの、澄んだ青い空と
さわやかな秋風が心地よい、絶好のインタビュー日和
場所 : ㈱十六島大敷事務所&十六島漁港

お二人の紹介

月岡 誠さん

- ☆ 子年生まれ27歳
- ☆ 十六島町出身、現在は西林木町
- ☆ 漁師（㈱十六島大敷所属）、船長
- ☆ 一児の父
- ☆ 漁師になった理由：海が好きだから！



橋本真樹さん

- ☆ 巳年生まれ23歳
- ☆ 園町出身
- ☆ 漁師（㈱十六島大敷所属）
- ☆ 独身
- ☆ 漁師になった理由：海が好きだから！



漁師の仕事

月岡さん：5t前後の船2艘で、磯引き網をしている。2艘の船には6人と7人が乗員する。50代以降の人が大半。今年から船長をしている。漁場は十六島湾。青ものの魚を中心に漁をしている。紅白の大漁旗を掲げるのは、年に20回くらい。

冬は漁ができないが、今年から、ワカメの養殖を始めた。もともとやっていたが、高齢化に伴い中止していたのを復活させた。

今は、朝3時30分に起きて4時過ぎから漁をする。季節によって朝1時30分や2時30分に起きることもある。寝るのは9時10時くらい。生活リズムは一般の人とあまり変わらないと思う。

漁師といっても、ここは株式会社なのでサラリーマンのように月給制。ボーナスは、利益次第。基本的に休みは無い。天候が悪ければ、休みになる。

まとまって休みが取れるのは、盆とゴールデンウィークくらい。前もって計画的に休みを取ることはできないが、それは仕方がない。

漁を大変だと思ったことはない。逆にパソコンを毎日見るような仕事の方が大変だと思う。定年は65歳だが、体が動けばその後嘱託のような形で続けることもできる。



インタビューの様子

仕事への思い、目標

月岡さん：十六島町で生まれ育ったこともあり、小さい頃から海は身近な存在だった。21歳から今の仕事をしており7年目となる。

今年から船長。目指すところは、漁労長。漁の際の総監督のような存在。社長の次にえらい人。現在の方は60歳。自分はその人を目標にしてやっている。



インタビューの様子

橋本さん：水産高校時代は、ダイビングをやっていた。卒業後、市内の工場に就職したが、今年の2月から今の仕事に就いた。とにかく海と船と魚が好き。海の景色はきれいで、仕事を始めたころは、太陽が出る景色をカメラにおさめていたほど。

目指すところは、船長。



取材メンバー

出雲の好きな所、とっておきの場所

月岡さん：出雲の自然が好き。出雲の自然は豊か。9か月になる息子の名前に「大地」と名付けたほど。特に、海から眺める陸の景色はいい。普通の人は、なかなか経験できない。

こんな、素敵な自然を、このまま残していかないといけないと思う。

風車の工事により、土砂が海に流れ汚泥となって湾の底にたまっている。そのため、海草が育たなくなり、それをエサとするサザエやアワビが育たなくなった。一旦汚れた環境はなかなか戻らない。

橋本さん：斐川の三本松公園から見る夜景がいい。彼女とのドライブスポットです。

好きな言葉

月岡さん： **大漁**

橋本さん： **海**



お二人の印象(記録者の感想)

事前にインタビュー内容を言っていなかったために、好きな言葉を書いてもらう時に少し戸惑われたようでした。お二人とも海の男という感じで、特に最後に船の上で記念撮影をした際は精悍(せいかん)でたくましく感じました。

月岡さんは、しっかりした受け答えをされていて、27歳ながら船長というのも納得です。年齢が上の方が多い中であって、ご苦労もあると思いますが、漁労長を目標に先を見据えておられる印象を受けました。

橋本さんの風貌はいまどきの若者という感じでしたが、話してみると、仕事に対して真摯に向き合っておられる印象を受けました。

楽しい取材でした。



取材を終えて、十六島漁港にて